

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第3回川西市行財政改革審議会	
事務局(担当課)		総合政策部企画財政課	
開催日時		令和3年10月6日(水) 18時00分から19時00分	
開催場所		Web会議システム(傍聴場所:市役所4階 庁議室)	
出席者	委員	上村 敏之 委員、樫野 孝人 委員、足立 泰美 委員、福田 直樹 委員、東 朋子 委員、田辺 彰子 委員	
	その他		
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、船木総合政策部副部長、富本企画財政課(行財政改革担当)課長、奥村主任、多田主任	
傍聴の可否		可	傍聴者数 2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1.開会 2.議事 (1)行財政改革における事業再検証の答申について (2)その他 3.閉会	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

事務局	<p>お時間がまいりましたので、令和3年度の「第3回川西市行財政改革審議会」を開会させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日はご多忙にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めます、川西市総合政策部企画財政課の埴田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の事務局の出席は、総合政策部長 石田、総合政策部副部長 船木、企画財政課（行財政改革担当）課長 富本、企画財政課主任 奥村となります。</p> <p>また、本日の審議会の傍聴者数は2人です。</p> <p>当審議会は「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条第3項、「川西市行財政改革審議会 会議公開制度運用要綱」、「川西市行財政改革審議会の会議公開に係る傍聴要領」に基づき、公開し、傍聴可能となります。</p> <p>会議録については、昨年同様に各委員のお名前を伏せた形で発言要旨を事務局でまとめ、その内容について、会長にご確認、ご承認いただき、この会議録も公開対象となります。</p> <p>また今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、「川西市行財政改革審議会のWeb会議運用に係る要領」に基づき、Web会議システムを活用して開催します。至らない点もあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>開催に先立って、Web会議システムの方法による参加及び通信の確認を行います。</p> <p>本日は、全委員がWeb会議システムによる出席となります。会議開始前に事務局が出席委員に対して、「映像及び音声により委員本人であること」、「会長及び委員相互間での映像及び音声の即時の相送受信が適正に行われていること」の2点について、確認がとれております。</p> <p>従いまして、「川西市行財政改革審議会規則 第6条第2項」の規定により、審議会が開催できることを、事務局から会長へご報告します。</p>
会長	<p>ただいまの報告について、承認します。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、本審議会のWeb会議の進行方法は、「Web会議の進行方法について」に沿って実施します。よろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>それでは、議事を進めます。</p> <p>本日の議題は、「行財政改革における事業再検証の答申」についてとなります。活発なご議論をいただけたらと存じますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは上村会長、議事の進行をよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>みなさん、こんばんは。</p> <p>早速、議事に移らせていただきます。</p> <p>本日は「行財政改革における事業再検証の答申」となります。</p> <p>本日は、1時間程度の会議を予定しております。30分程度で確認を行い、修正があればその場で確定して、市長へ答申を行います。限られた時間ではありますが、皆様ご協力の程よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、答申（案）につきまして、本日までの経緯を説明します。</p> <p>第2回までの議論を踏まえ、事務局で修正したものを私のほうで確認し、その内容を答申（案）として、本日の資料としております。</p> <p>それでは、事務局より答申（案）について、ご説明をよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>行財政改革担当課長の富本でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは私のほうから、「答申（案）」について、ご説明します。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>答申は、鑑文と各事業の検証結果シートで構成されています。</p> <p>まず、鑑文につきまして、ご説明いたします。</p> <p>鑑文は、令和3年9月22日に開催した第2回審議会においてご議論いただき、事務局修正案を上村会長にご確認いただき、本日の資料としております。</p> <p>続いて、検証結果シートにつきまして、こちらも第2回審議会において、全事業をご確認いただき、数値表記の統一についてご意見をいただきました。</p> <p>事務局にて修正したものを本日の資料としております。</p> <p>本日の審議会では、この資料1について、最終確認をお願いしたいと思っております。</p> <p>本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>時間配分の目安については、18時30分までを目安に最終確認を行います。修正がある場合は、その場で事務局が修正しますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、検証結果シートについては、前回確認を行い、確定しておりますので、</p>

	<p>本日は鑑文の確認を行います。</p> <p>それでは、鑑文（案）について、ご意見を伺いたいと思います。ご意見は、ございませんでしょうか。</p> <p>委員、お願いします。</p>
委員	<p>2 ページ目の表の表記の仕方について、表の下にある注釈に「総事業数と一致しない」と書いていますが、今年度 95 事業が対象でしたが、この数字の合計が一致しないことについて、皆さん特に気にならないでしょうか。</p>
会長	<p>この表は、一つの事業について方向性が2つ以上入っている場合があるという解釈だと思いますが、その理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p> <p>この表記は、令和元年度の答申と同じ表で表記させていただいております。表記を変更すると令和元年度時点と比べた時にわかりにくくなってしまう場合があるかと思しますので、今回表記を合わせています。</p>
会長	<p>私は特に違和感ないですが、どうでしょうか。</p>
委員	<p>違和感がなければ、それで結構です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>この表にある課題事業 AA 事業と検証事業 A 事業の違いについて、注釈は必要ないでしょうか。初めて読んだ人はわかりにくいのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらも前回と同じ表記にしていますが、追記は可能です。</p>
会長	<p>記載する場合、どんな文言にしましょうか。</p>
事務局	<p>課題事業 AA 事業と検証事業 A 事業の違いとしては、令和元年度の事業再検証で、課題事業 AA 事業がディスカッションによる検証を実施したもの、検証事業 A 事業が書面による検証を実施したものとなっております。</p> <p>ただ、書面による検証がやりづらいという部分もあり、今年度は全てディスカッションで実施しましたので、手法の違いを説明するのは難しいかと思ます。</p> <p>今年度の実施による違いを考えますと、大きく2つの違いは、優先順位が高</p>

<p>会長</p>	<p>いか低いかというところの整理になります。</p> <p>私からの提案ですが、令和元年度は区別することに意味があったかもしれませんが、今年度は全てディスカッションで行い手法が同じなので、ほとんど意味がないような気がしています。</p> <p>課題事業 AA 事業と検証事業 A 事業の区別はせず、例えば「廃止 / 休止」は 9 と 2 で 11 と、課題事業と検証事業の数値を合計するのはいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>令和元年度と今年度を合わせてお見せするとなると、表の記載の違いについて、指摘されることもあるかと思いますが、そのようなことはないという理解でいいでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>今年度は全部同じ方法で実施しましたので、特に問題ないと思います。令和元年度は、書面審査というものがあったので、この検証事業は書面審査ということで分けていたのだと思いますが、今回その表記に合わせる必要はないと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>確認ですが、この課題事業と検証事業に市が分けられたのは、市の認識されている重要度や課題による区分けという理解だったのですが、私たちが検証するスキームが全てディスカッションだったかどうかということが問題なのでしょうか。</p> <p>市が重要だと思っている、課題があると思っている事業に対してはこういう評価がありました、ということが必要なのかなと思って、私はこれを拝見していたのですが、その手法の違いがないから、合計の表記でよいということではないのでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>ただ、私たちのほうで、課題事業と検証事業の区別をしながら検証したかというところはどうでしょうか。特にそういう区別をせずに検証を実施したと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私たちの検証スキームはそうだと思います。</p> <p>ただ、例えば、＜参考＞令和元年度中間答申の、「2. 限られた財源の中で、持続可能なまちづくりを進めるため、事業の優先順位を意識信頼し、見直しを図ること」ということが書かれていて、市役所の皆さんがその優先順位を考えて、順番をつけられたのかなという私の認識だったのですが、市がそれでよければいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今のご意見は、課題事業 AA 事業と検証事業 A 事業は、それだけ優先順位が違うのだから、この表記のまま残してもいいのではないかというご意見ですか。</p>

委員	<p>そうです。逆に市は、課題事業 AA 事業と検証事業 A 事業は分けず、合計の表記でよいのでしょうか。</p>
会長	<p>事務局に確認ですが、ここの部分についての考えはいかがですか。</p>
事務局	<p>事務局としまして、令和元年度に事業再検証を実施させていただくときに、課題が大きく優先順位が高い事業と、課題はあるものの課題事業 AA 事業に比べたら優先順位が低い事業、という形で整理をさせていただきましたが、この分け方自体は今回の答申で合計の表記に変更したからといって、そこの判断が変わるわけでないと考えます。</p> <p>審議会としましては、令和元年度から実施手法を変更し、今年度は全てディスカッションで議論していただきました。この点については、より充実した形でご議論いただいたと思っていますので、課題事業 AA 事業と検証事業 A 事業を合わせた件数で表記する、という形で支障はないと考えています。</p>
委員	<p>わかりました。私は市がよければ問題ありません。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは、合計の表記にしたいと思います。</p> <p>おそらく2つに分けた背景には書面審査を入れることを前提に、重要度を設定して重要なものについてはディスカッションを実施しようということを考えていたと思います。</p> <p>今回はオンライン会議により、全てディスカッションを実施することができたわけなので、分けずに一緒に書くということにさせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>それでしたら、令和元年度は、ディスカッションと書面審査を実施していたが、今年度はより改善する形で、全てディスカッションで実施したということについて、説明書きがあってもいいかと思いますがどうでしょうか。</p>
会長	<p>ご意見がありましたので、今の内容を追記したいと思います。</p> <p>追記する文章としては、「令和3年度については、上記の全ての事業についてディスカッションを実施した。」でいかがでしょうか。</p>
委員	<p>よいと思います。</p>
会長	<p>表のタイトルに当たる部分は、「令和3年度 事業の再検証 結果」でいかがでしょうか。</p>

委員	<p>先ほど表記されていた検証事業の「検証」と区別するために、例えば、「令和3年度 ディスカッション対象事業」という表現にした方がいいのではないのでしょうか。</p> <p>「検証」という言葉が、前回の表記と比較される可能性があるのであれば、「検証」という言葉は使わないほうがよいと思いました。そうすることで、先ほど議論にあった前回はディスカッションと書面の2つがありましたが、今回は全てディスカッションで実施したということがより伝わると思います。</p>
会長	<p>この表の内容だけが結果ではありませんので、「令和3年度 ディスカッション対象事業」にしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p><異議なし></p> <p>ありがとうございます。それではマイクを一旦事務局へお返しいたします。</p>
事務局	<p>皆様ありがとうございました。それでは答申の準備をさせていただきたいと思っておりますので、それまでの間しばらく休憩とさせていただきたいと思っております。再開は18時40分とさせていただきたいと思っております。</p> <p><休憩></p>
事務局	<p>お待たせいたしました。再開させていただきます。</p> <p>答申に移らせていただきますが、ここからは越田市長も参加させていただきます。それでは上村会長より、越田市長へ答申をお願いいたします。</p> <p><会長から市長へ答申> 答申の鑑文を読み上げ</p>
事務局	<p>上村会長、ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日の審議会の閉会にあたり、越田市長よりご挨拶を申し上げます。それでは市長よろしくをお願いいたします。</p>
市長	<p>この度は、川西市行財政改革審議会につきまして、ありがとうございました。</p> <p>3年間という長い期間での審議会になりましたが、本当に厳しいご意見も含めまして、様々な的確なご意見を頂戴することが出来ました。本当にありがとうございます。</p> <p>本年の決算は、昨年度のコロナの影響で、医療費等の支出が少し抑えられたということもあり、実際の川西市の財政的な体力以上に、良い収支となっている状況です。我々としてはこの結果が、財政健全化をめざし体質が改善され、その結果が表れたのではなく、今この社会の風潮の中で何とか保っているにす</p>

ぎない、と認識しておりますので、いただいた答申も含めまして、引き続きしっかりと財政健全化に取り組んでいきたいと思っています。

今までは、皆さんに市役所に集まっていたいただいて検証するということがなかなか出来なかったですが、特に今回は、ICTを活用することで全事業においてディスカッションを実施していただきました。

これはポストコロナを考えていく中で、新たな行財政改革審議会の形というものも提示をいただいたのではないかと考えております。

ただ今回、財政健全化をしていく、行政改革をしていく、お金の使い道を見直していくということの難しさというか、本当に決意が必要だということを、改めて考えております。

これから、PDCA をしっかりと回すといったところで、この「C」の部分まではしっかりと審議会の皆さんに実施いただきました。最後、改善につなげていく部分は、一つは市長の決意でありますし、一つはそれぞれの職員がしっかりとした思いを持って、一つ一つ着実に実行していくことだと思っています。

審議会の皆さんからいただいた長時間にわたるこの議論が、無駄ではなく、川西市を一生懸命考えて議論をして、応援してよかった、と言っていたけるように、これからの予算編成等に向かって、しっかりと取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

また、これまでに答申をいただいたものについて、方向性は出たものの、明確な形になっていないものもございます。使用料等の見直しについてはまだ始まったばかりでありますし、補助金の見直しも現在進行形で進んでいるところでございます。

また、本日いただいた答申の中では、新たに外郭団体等の役割の見直しということについても、ご提案をいただきました。

私たちにとって、持続可能な行政体質を作るというのは、まだまだ道半ばというより、始まったばかりだと思っています。各委員の皆様におかれましては、引き続き、川西市政に対しまして、格別のご尽力と、我々がこれからも走り続けられるように、しっかりとバックアップ、また、監視をしていただき、そんな目を向けていただければと思っています。

今回の答申を重く受け止めて、これからもしっかりと取り組んで参りたいと思いますので、どうかよろしくお願いをいたします。

以上をもちまして、閉会にあたりましてのお礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

事務局

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。
本日は誠にありがとうございました。